

歴史とともに返り咲く「塩の道」のまち

- 自然と社会への緩衝装置としての建築 -

明星大学理工学部総合理工学科建築学系 加藤大希

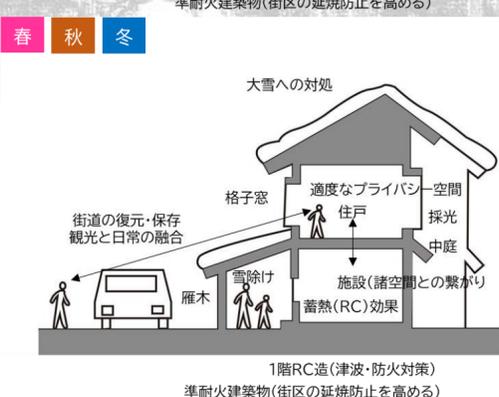
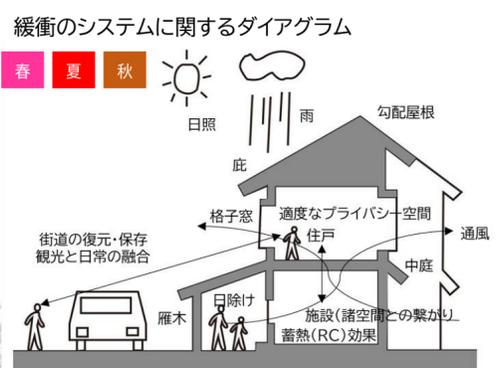


「塩の道」の始まり(海岸側(北側))から通りを見る 左側にはギャラリー、屋内運動スペース、託児所、物見やぐらが並ぶ。右側には店舗(飲食店)、住宅が並ぶ。

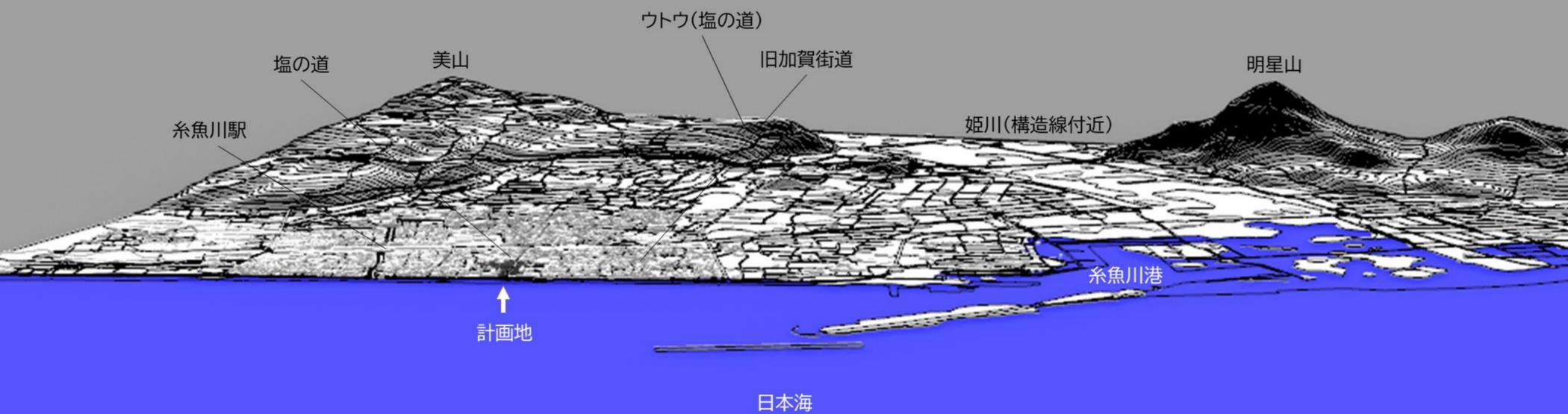
計画概要

近年、大火で見舞われた新潟県糸魚川市の旧街区を対象エリアとして、火災、地震、津波、河川の氾濫等の自然災害に備えつつ、人口減少、少子高齢化、中心街区の衰退、伝統的まちなみ景観の喪失など、まちが抱える諸問題を解決へと導くため、地形の成因を手掛かりに構想した、様々な「モノ」や「コト」を緩やかにつなぐ建築プログラムをもとに新しいまちのかたちを提案する。

問題	緩衝	提案
1.人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の悪さ ・社会的弱者 	<ul style="list-style-type: none"> ・アミューズメント(銭湯、物見やぐらなど) ・生涯学習(図書館、資料館(塩の道)) ・ショッピング(日常、観光) ・利便性(交通:バス、タクシー) ・宿泊 ・住居と関連施設の隣接(例障害者・老人施設と医療施設など)
2.災害の危険性	<ul style="list-style-type: none"> ・津波 ・水害 ・火災 	<ul style="list-style-type: none"> ・強固な構造(1F:RC 2F:木造(制振)) ・不燃化(1F:RC 2F:不燃化木造) ・避難所としての機能(宿泊、医療)
3.気候の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・低温 ・高湿度 ・多雨 ・多雪 ・山風 	<ul style="list-style-type: none"> ・断熱性を高める(外断熱) ・風通しを良くする(中庭) ・多雪でも通路の確保(雁木)
4.景観の問題・伝統的景観の保存		<ul style="list-style-type: none"> ・街区割の継承 ・建築様式の継承(雁木、切妻屋根) ・街道の継承(千国街道:塩の道、北国街道)



糸魚川地形CG(日本海に面する計画地、後背地には山が迫る)





北国街道沿いの道の駅(後背地の山並み新潟焼山)産地直送品を販売、雁木を外部通路エントランスに使用

1. 人口動態 -人口動態の変化に伴う、まちの問題と分析-

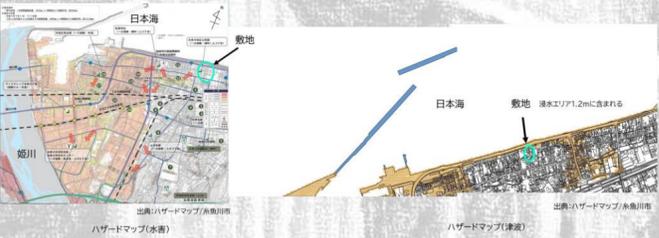


年々人口が減少していく

分析

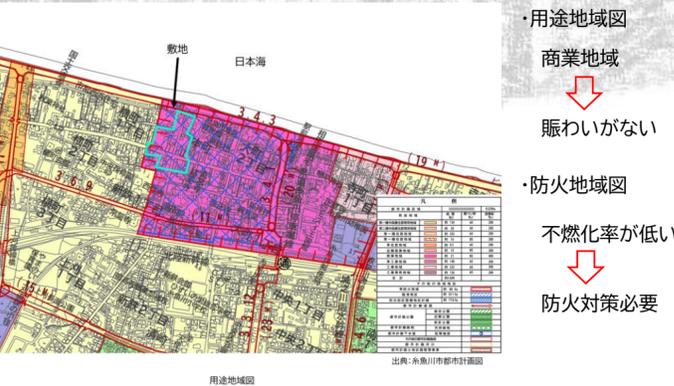
利便性、大火の影響、コミュニティの場の少なさなど

2-1. 災害 -川の氾濫、津波、地震の恐れがある町の分析と対策方針-



川の氾濫: 避難所としての機能がない → 避難所として使用できることが必要
 津波: 津波対策が脆弱 → 津波対策が必要
 地震: 耐震性が脆弱 → 耐震性を高める必要がある

2-2. 災害 -中心街區の問題と分析(賑わいの無さと不燃化率の低さ)-

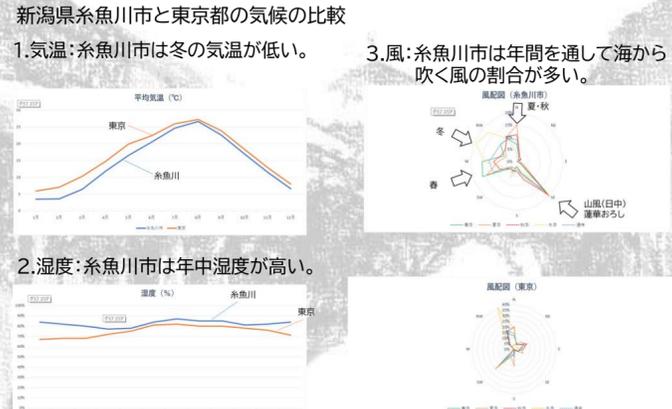


3. 街區 -糸魚川駅北區防災街區整備地區計画、不燃化・景観ガイドラインの分析-



地区計画、不燃化・景観ガイドラインに基づいた計画とする。

4-1. 糸魚川の氣候 -気温の低さと高湿度、特徴的な風向き-



4-2. 糸魚川の氣候 -多雨、多雪、日照時間の少なさ-

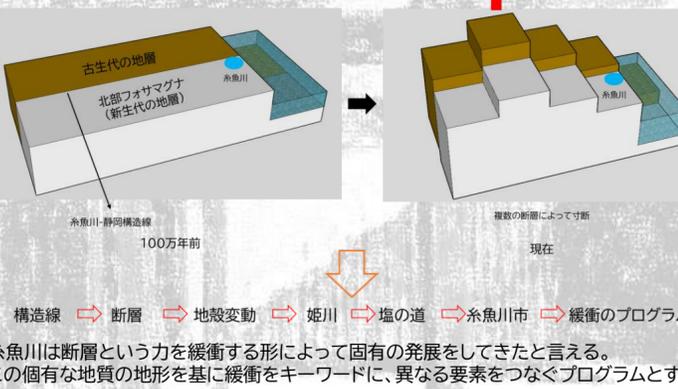


5. 糸魚川の歴史と自然 -豊かな自然と地形に由来する歴史-



糸魚川には個性豊かな自然環境に恵まれ、地形を活かした歴史が存在する。

6. プログラムへの糸口 -糸魚川の誕生を導く地形の変動-



対象街路に面した計画建築の設計方針



北国街道から姫川方向を見る(左側に医療施設、障害者施設が並び、右側に住宅、観光案内所が並び)



雁木 環境への適応を図る半外部空間





山側から日本海側へ塩の道と計画建物を見る(左側には高齢者施設、右側にはカフェ、宿泊施設、塩の道「塩づくり」体験施設)

7. 計画概要

断層という力を緩衝するシステムを建築のプログラムの原理に位置付ける。
異なるモノを緩やかにつなぐ

プログラム

1. 社会的弱者への応答(緩衝)する建築
まちを再建し、活性化させる、利便性の高い建築
2. 自然の脅威(地震、津波、季節風、豪雪)に応答(緩衝)する建築
3. 気候に順応し、快適化を図るパッシブデザイン(緩衝)の建築
4. 歴史性ある文化を継承し、新しい文化を創設する建築

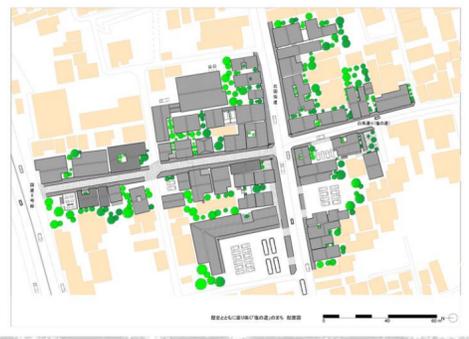
用途

1. 塩の道をテーマとした展示教育のための建築
2. 社会的弱者、高齢者、若い世代が住まう住環境を複合した建築
3. アミューズメント施設(道の駅、銭湯、物見やぐら)
4. 学習施設(図書館、資料館、ギャラリー)
5. 子供のための施設(運動場、託児所)
6. 各用途をつなぐ機能

8. 歴史文化の継承・まちの復興-街区割の継承-伝統は景観の保存をはかり、まちの問題を解決-



Before



After

歴史文化を継承するため伝統的な宿場町の街区割を残す計画

9. 街並み景観の連続性



味噌製造工場と駐車場のリノベーション
出典: google earth



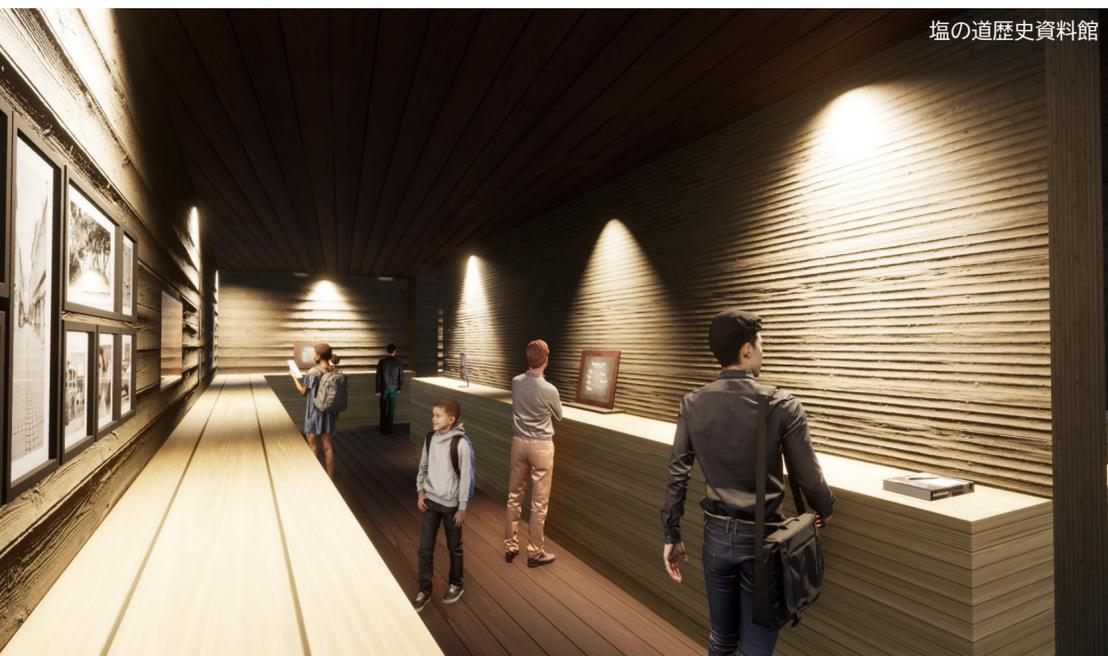
計画地の中心の場
駐車場も駐車場だけでなくバス、タクシー乗り場として利用



人通りが少ない道
主典: google earth



歩行者天国とし人通りの多い道

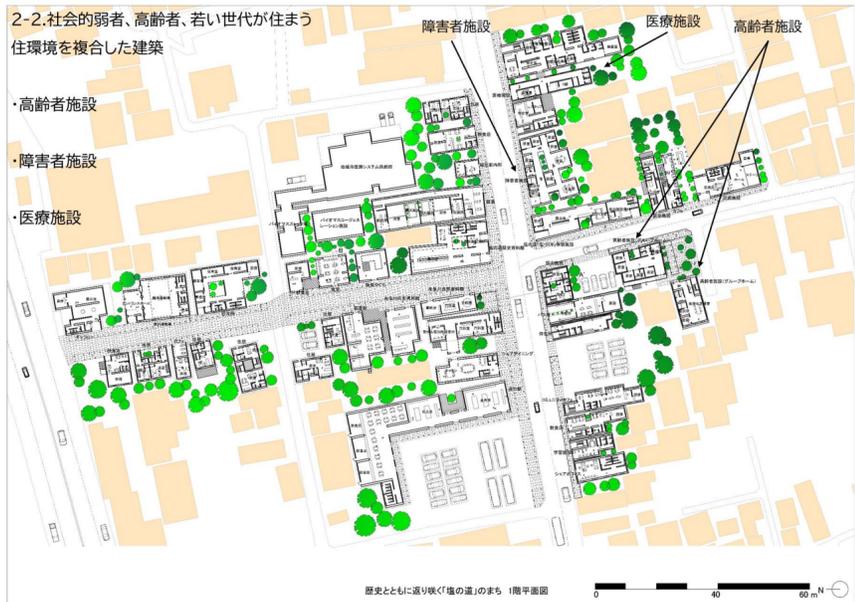


塩の道歴史資料館

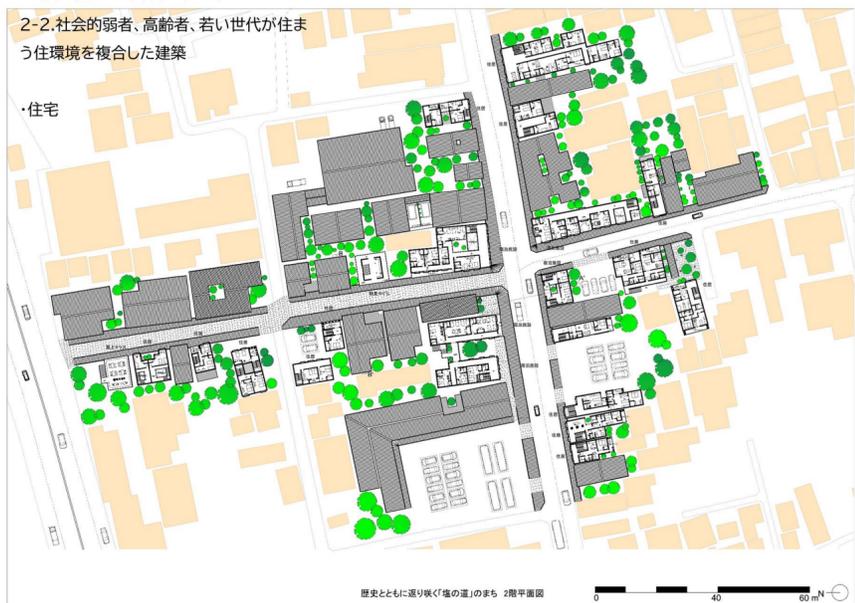
10. 用途 -塩の道-をテーマとした展示教育施設を建築する-

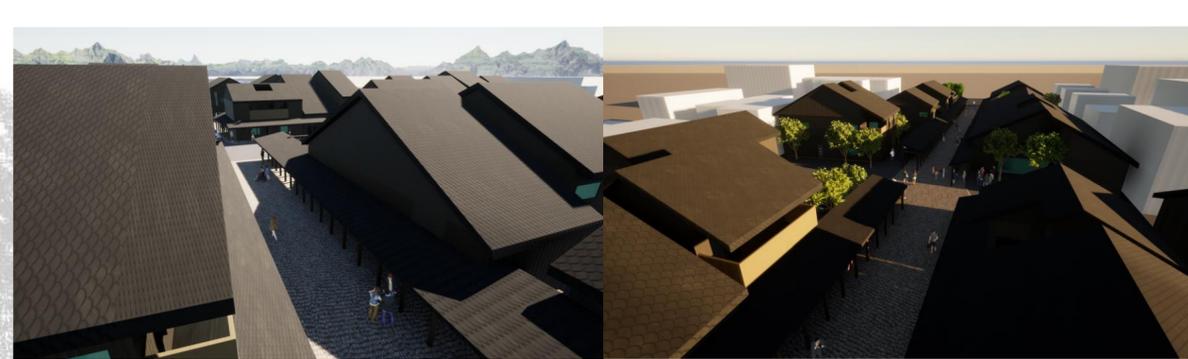


-社会的弱者と若者のまちをつくる-



-二階に設けた若者が住む住宅-





物見やぐらから山側を見る

物見やぐらから海側を見る

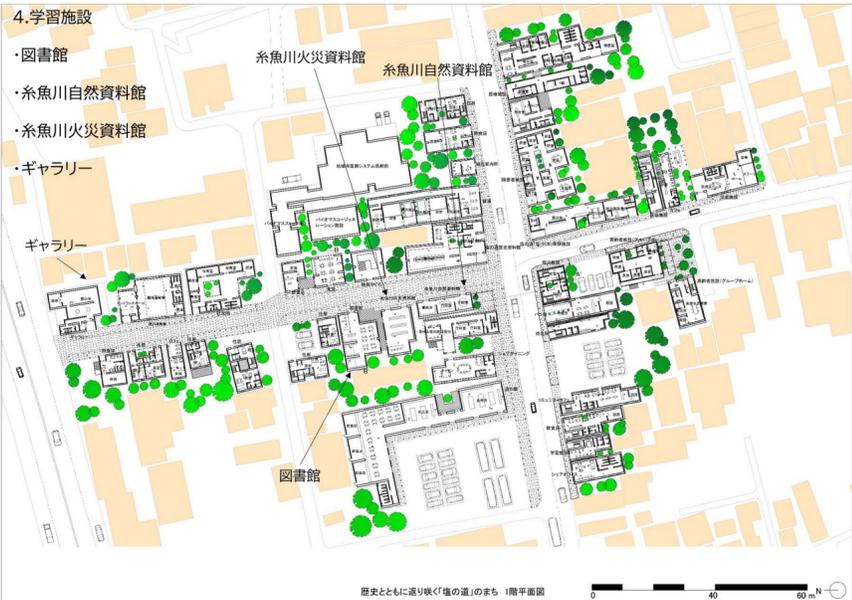


東側立面図

-観光と日常が共存するまちをつくる-

4. 学習施設

- ・図書館
- ・糸魚川自然資料館
- ・糸魚川火災資料館
- ・ギャラリー

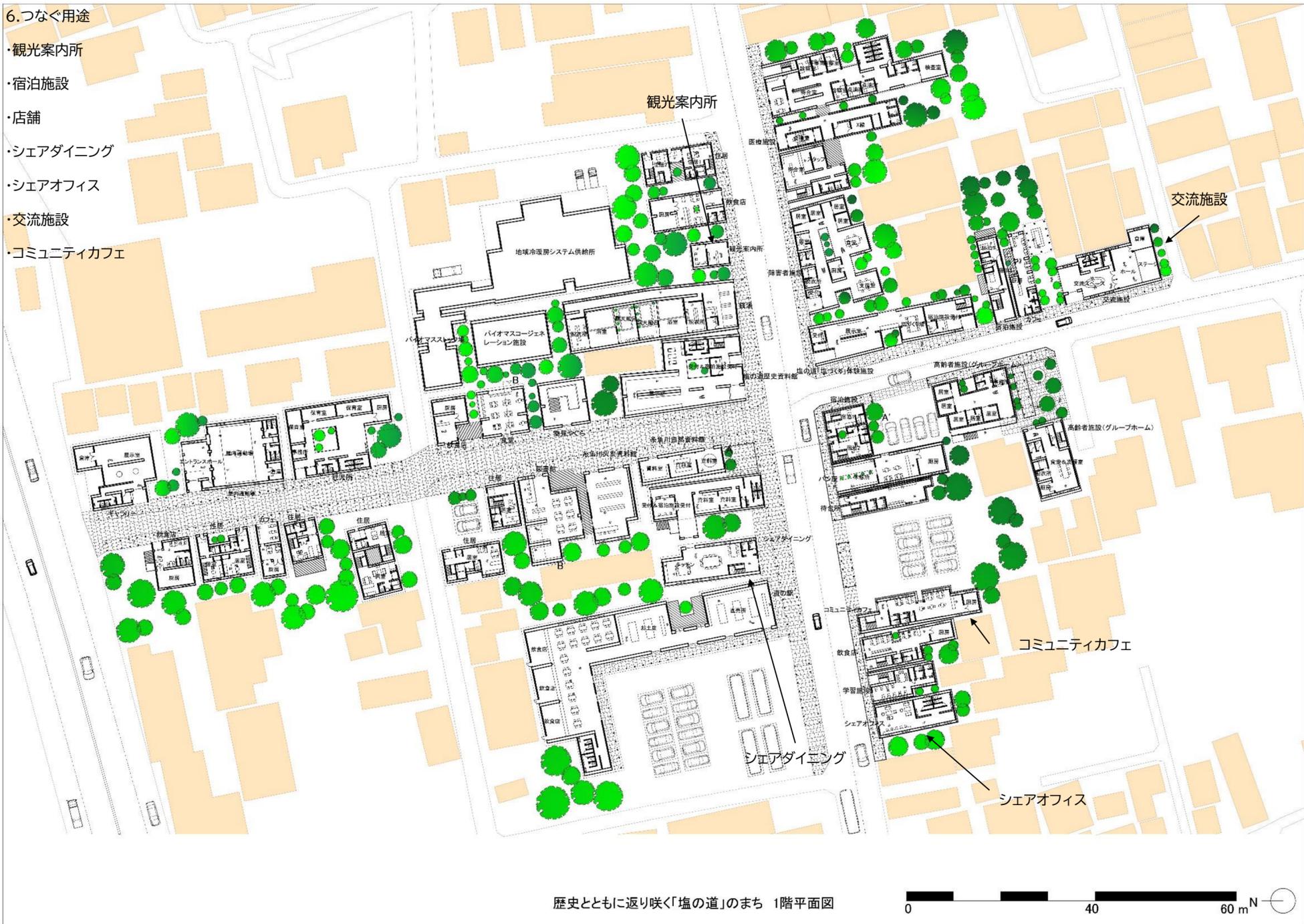


歴史とともに返り咲く「塩の道」のまち 1階平面図

-観光と日常の各要素をつなぐ機能を設ける-

6. つなぐ用途

- ・観光案内所
- ・宿泊施設
- ・店舗
- ・シェアダイニング
- ・シェアオフィス
- ・交流施設
- ・コミュニティカフェ



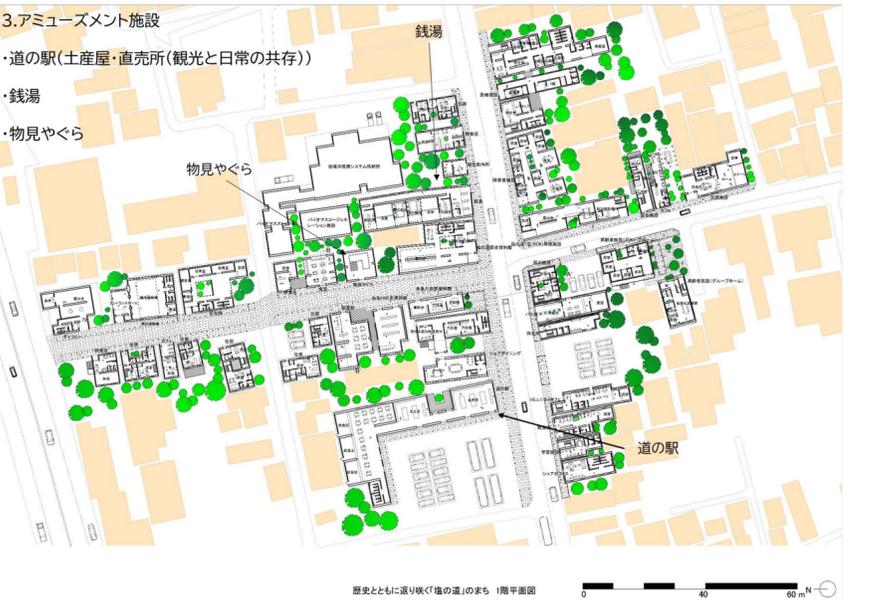
歴史とともに返り咲く「塩の道」のまち 1階平面図

0 40 60 m N

-観光と日常が共存するまちをつくる-

3. アミューズメント施設

- ・道の駅(土産屋・直売所(観光と日常の共存))
- ・銭湯
- ・物見やぐら



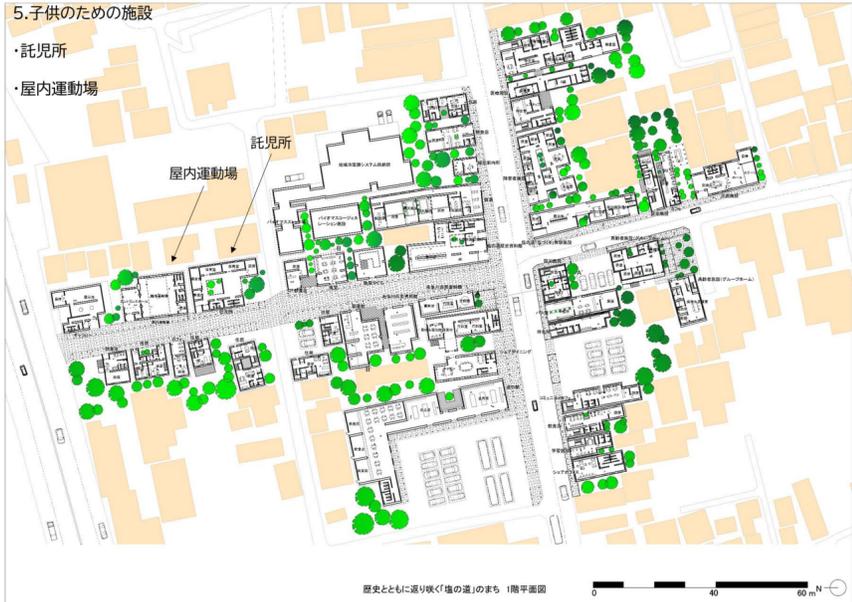
歴史とともに返り咲く「塩の道」のまち 1階平面図

0 40 60 m N

-子供が遊ぶ、学ぶまちをつくる-

5. 子供のための施設

- ・託児所
- ・屋内運動場



歴史とともに返り咲く「塩の道」のまち 1階平面図

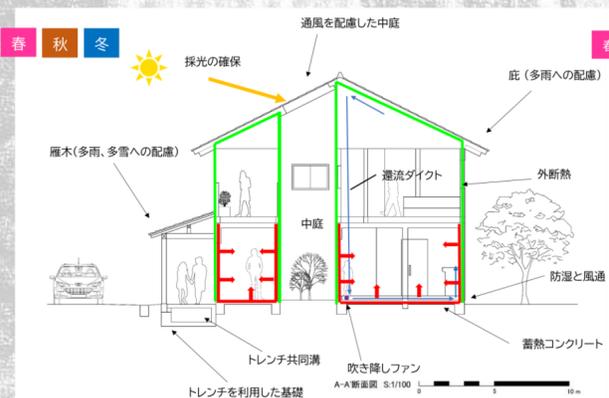
0 40 60 m N



11. まちをつくる建築

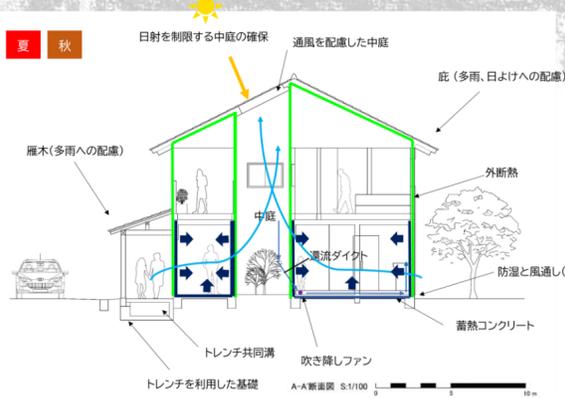


12. 気候への応答 -春・秋・冬-



糸魚川は東京に比べ気候が厳しいため住環境を快適にするために冬にかけてはRC躯体を蓄熱体として利用し室内空気を床下に還流させる。街区の中心部の空洞化したエリアを利用し、糸魚川の林業を生かしたバイオマスコージェネレーション地域冷暖房システム供給所を設ける。共同溝は雁木下トレンチを利用

12. 気候への応答 -春・夏・秋-



15. 周辺環境の設備計画



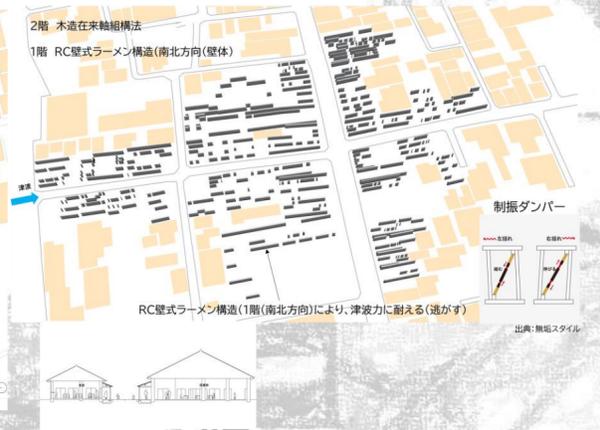
13. 計画地の緑化計画



まちの緑化を推進することによってアメニティを向上させ火災時の延焼防止につながる。

塩の道歴史資料館の雁木から見る(塩の道と北国街道の交差点)

14. 構造計画



構造計画は、一階は地震や津波対策として南北方向にRC壁体を配し、二階は制振装置を入れた木造軸組構法を採用する。

北国街道から上越方向を見る(左側に道の駅、シェアダイニングが並び、右側にシェアオフィス、コミュニティカフェが並び)

